

わくわく国際交流

深川国際交流協会 広報誌 Vol.19 2007.3

<http://fukakoku.net/>



▲ 青少年カナダ交流訪問団壮行会



▲ 青少年カナダ交流訪問団 ホワイトロックビーチ



▲ 青少年カナダ交流訪問団 ブッチャート・ガーデン



▲ 青少年カナダ交流訪問団 学校前



▲ 青少年カナダ交流訪問団 アボツフォード市役所訪問



▲ 青少年カナダ交流訪問団 アボツフォード市役所訪問

協会設立 10 年の節目に

深川国際交流協会 理事長 小滝 聡

深川国際交流協会は、本年 3 月で設立 10 年を迎えました。協会では設立 10 年を意識して、昨年 4 月から「10 周年記念イヤー」として、10 周年記念交流パーティー、これまでの協会の歩みを紹介するパネル展、青少年カナダ交流訪問団同窓会など多彩な事業に取り組んできました。その中で特に印象に残った事業は、協会主催事業の「青少年カナダ交流訪問団同窓会」でした。

昨年 8 月 16 日、これまでの 10 年間に、姉妹都市カナダ・ブリティッシュコロンビア州アボツフォード市に派遣された青少年 85 名に呼びかけ、彼らの再会の集い「青少年カナダ交流訪問団同窓会」を開催しました。その日集まった人数は、なんと 75 名にもなり大変な盛会でした。遠くは広島、東京方面から駆けつけた人もいて、この同窓会への思いの深さを実感しました。各年ごとにテーブルを囲んだ参加者は、1・2 回目の団員たちはもちろん立派な社会人であり、大学院生、大学生、そして現役の中学生・高校生が 2 週間のカナダ体験の思い出話を花を咲かせ、再会を楽しみました。また、一人ひとりの近況が語られ、全員がこの体験をバネとして、大きく成長したことを実感し、主催者の一人として感慨を新たにしました。

8 月下旬から 9 月上旬にかけて、アボツフォード市からファーガソン市長を団長とする 14 名の公式訪問団が深川市を訪れました。私たちの協会は、多くの市民に参加を呼びかけ、音江の丘の上でパーベキューパーティーを開催し、市民有志の協力をえて郷土芸能、郷土料理、餅つきなどを訪問団のみなさんとともに楽しみました。

今年 1 月 20 日には、国際理解フォーラムが市内のいくつかの団体との共催で開催され、その第一部として今年度アボツフォード市に派遣された 5 名の中学生による「青少年カナダ交流訪問団報告会」が開かれました。例年よりもはるかに多い参加者の中、しかも、今年の報告会は英語でなされ、それを他の団員が日本語に訳すという方式で行なわれました。わずか 2 週間の短期間の体験がきっかけで飛躍的な英語力の向上につながったことに驚きました。

また、第 2 部では、韓国、中国、ネパールに関係の深い 3 名のパネリストを招いて、パネルディスカッションを行い、パネリストのユーモラスな語り口に会場は終始笑いに包まれ、近隣の国々の文化に触れる有意義な時を過ごしました。

しかし、この 10 年間で協会を取り巻く環境が大きく変化したように思います。深川市が姉妹都市提携をする 98 年頃までは、道内の多くの市町村が姉妹都市提携を行い、交流の幅を広げていました。その後、バブルの崩壊の影響が深刻化し各自治体とも国際交流の費用負担が「お荷物」的存在という雰囲気広がりがつつあります。

私は、このような時だからこそ知恵を出し合うことが大切と考えています。お金をかけなくてもできる交流がたくさんあります。情報化が進んだ現代、リアルタイムで世界中の情報は手に入ります。また、日本から情報を発信することも、いとも簡単に行うことが出来ます。その気になれば、IT 機器を利用した英語、日本語、その他の言語の授業を送受信することも可能です。

国際交流の目的は異文化を理解し、尊重する心を育てることにあります。同時に、日本の文化を世界に発信する力を養うことにあります。それが狙いであるとする、お金をかけないで活動を発展させる創意工夫がたくさんあるように思えてなりません。

やさしい英会話教室開催

英会話の経験の全くない方（レベル 1）と多少経験のある方（レベル 2）を対象に 2 つのクラスを開設し、拓殖大学北海道短期大学地域・国際交流委員会と共催して、市民の国際理解と海外交流の推進を目的に「やさしい英会話教室を開催いたしました。

拓殖大学北海道短期大学の姉妹校である、カナダ・フレーザーバレー大学で英語学を担当されているロンダ・シューラー教授を講師にお迎えして、拓殖大学北海道短期大学で実施いたしました。

【レベル 1】日時：2006 年 5 月 9 日（火）～ 午後 6 時 30 分～ 8 時
毎週火曜日・全 8 回開催
受講者：11 名

【レベル 2】日時：2006 年 5 月 11 日（木）～ 午後 6 時 30 分～ 8 時
毎週木曜日・全 8 回開催
受講者：10 名



インターナショナルデー開催

深川国際交流協会 理事 轡田 淑子

6月16日(金)午後5時、2006年度のインターナショナルデーが幕開けしました。小滝理事長の挨拶、国際ソロプチミスト深川の山崎会長の挨拶と続き、外国人ゲストの自己紹介に入りました。

本年度は、拓殖大学北海道短期大学客員教授のロンダ・シューラーさんをはじめとする14名の外国人ゲストをお迎えし、秩父別町AETのリンダ・マッケンドリックさんのご両親にも参加していただき、幅広く交流することができました。

「日本不思議当てクイズ」では、ゲストの皆さんのユニークな問題に最初はやや緊張気味の中高生もすっかり乗せられ、全問正解となりました。

次のプログラム「世界クイズゲーム」は、外国人ゲストの巧みな進行で会場の盛り上がりは最高潮に達し、何よりも物知りな中高生には終始圧倒されました。

コーヒードリンクをはさみ「アイラブアップルズ」ゲームを開始しました。会場の誰かと挨拶を交わしてからジャンケンをし、勝った人はりんごのシールを顔に貼ってもらい、りんごのシールの数の多さを競うゲームです。会場は、赤・黄色のりんごのシールが貼られた、参加者のにこやかな顔がたくさんあふれていました。

最後のダンスタイムでは、一已中サッカー同好会による「よさこい」が威勢よく繰り広げられ、はつらつとした中学生の姿に会場から大きな拍手が送られました。

和やかな雰囲気の中、時が過ぎ、中川国際理解部会長のお礼の挨拶で幕を閉じました。インターナショナルデーの参加者は89名でしたが、たくさんの外国人ゲストが参加してくれたため、例年より会場がとてもにぎやかに感じました。

外国人ゲストと話がつきず会場を去りがたいといった中高生の姿にこの行事の意義を強く感じました。今後またたくさんの中高生がインターナショナルデーに集うよう、はたらきかけの方法や内容の充実を考えていきたいものです。



深川国際交流協会 10周年記念交流パーティー開催

6月16日(金)、プラザホテル板倉にて、深川国際交流協会の会員交流・会員拡大を目的に「深川国際交流協会10周年記念交流パーティー」を開催いたしました。

会場には、1997年度から2006年度までの深川国際交流協会の歩んできた道のり(青少年カナダ交流訪問団派遣事業、インターナショナルデー、国際理解講演会などの各種事業)を年度別に10枚のパネルにして展示いたしました。また、歴代の青少年カナダ交流訪問団が作成した団旗6枚も展示し、深川国際交流協会の活動を分かりやすく参加者に周知いたしました。

クイズでは、深川市近隣のAET14名が日本の不思議に思うことを問題にし、参加者はクイズを通し、日本との文化の違いを学び、ユニークな問題で会場はにぎわいました。

また、抽選会では、170本の景品・150本の参加賞合わせて総額25万円相当の景品を用意しました。総額25万円相当の景品を前に、パーティーに参加した223名の参加者は大変な盛り上がりを見せました。

- 18:30 受付開始
- 19:00 開会
司会: 深川国際交流協会 広野会員交流部会長
会長挨拶: 深川国際交流協会 芳賀会長
来賓紹介
- 19:05 来賓挨拶: 北海道議会議員 岡田 憲明 氏
- 19:10 乾杯: 深川市議会議員 川中 裕 氏
- 19:40 クイズ
- 19:55 抽選会
- 20:25 理事長挨拶: 深川国際交流協会 小滝理事長
- 20:30 閉会



2006 青少年カナダ交流訪問団報告

2006年7月26日から8月10日の行程で青少年海外派遣事業(青少年カナダ交流訪問団派遣)が実施されました。

日程・メンバー紹介

月日	主な研修・活動内容
7.26	▪ 出発～バンクーバー国際空港へ
7.27	▪ 英語の授業、スポーツ、工芸
7.28	▪ ブッチャート・ガーデン見学
7.28	▪ ビクトリア市内見学
7.29	▪ ホストファミリーと過ごす
7.30	▪ ホストファミリーと過ごす
7.31	▪ 英語の授業、アポツフォード市役所訪問
7.31	▪ ホワイトロックビーチ見学
8.1	▪ 英語の授業、スポーツ、工芸
8.2	▪ 英語の授業、カルタス湖見学
8.3	▪ 英語の授業、アグリフェア見学
8.4	▪ グランビルアイランド、ロブソンストリート、スタンリーパーク、公園散策
8.5	▪ ホストファミリーと過ごす
8.6	▪ ホストファミリーと過ごす
8.7	▪ ホストファミリーと過ごす
8.8	▪ 英語の授業、乗馬、ピクニック
8.8	▪ さよならパーティー
8.9	▪ 英語の授業、バンクーバー国際空港出発
8.10	▪ 帰国～深川へ

	佐藤 允洋 (リーダー) 深川中学校 3年		樋口 留美 (サブリーダー) 音江中学校 2年
	三輪 栞 音江中学校 2年		岡下 亜古 一已中学校 1年
	黒田 悠平 深川中学校 1年		山崎 史朗 (団長・引率) 深川国際交流協会 会員

全体を通しての感想

佐藤 允洋 (深川中学校 3年)

カナダに滞在した16日間は、僕にとって一生の思い出に残り大変勉強となる毎日でした。

たくさんものを見て、聞いて、触って、自らの体でカナダそのものを味わってきました。それはカナダ人の性格であったり、風土であったり、文化であったりと実にさまざま、素晴らしいものでした。僕も、また他のメンバーも毎日毎日が新鮮で、常に新しいものを探しては人に尋ねたり、先生に聞いたりして、驚き、笑ったりしてきました。僕の中では特に異文化交流が本当に面白かったです。ホストファミリーとは毎日「カナダではトイレを使わないときは開けておくんだよ」「深川の中学生はプールにビキニを着ていけないんだよ」など互いの国や市について2時間も3時間も話していました。おもえば、そうやって毎日何時間も家族と会話をしていたことが英語を話せるようになる理由のひとつだったのだと感じます。最初はリスニングもスピーキングも全然駄目でした。家族が何を言っているかもほとんど聞き取れず、日本人特有の「うなずき」という動作ばかりを繰り返していました。

しかし、カナダに来てから2日目、集中して聞けば聞き取れるし、英語も頭から素直に出てくるようになりました。そして、この時から僕は無意識のうちに同居している黒田君にも英語で話すようになっていました。また、1日目は日本語で書いていた日記も無意識のうちに英語で書き始めるようになっていました。(その後もずっと英語だったため報告書は苦労しました)

ただ、僕はカナダで一番つらかったことがひとつだけあります。それは、体力です。毎日毎日違うところに行き、歩き、そして周りからは常に英語が聞こえてくる。性格からして常にその英語を聞き取ろうとしてしまい、常に学校のリスニングテストをしている状態(笑)。もちろんものすごく面白いし、勉強にはなるのだけれども、研修の終盤あたりはさすがに疲労が見られました。16日間はものすごく短く感じたけれども、体力的にちょうどいいのかな・・・と思いました。

僕はこの16日間を充実し、素晴らしいものにさせてくれた多くの人に感謝をしたいと思います。まずは僕を研修に出させてくれた両親に、ありが

とうございました。また行くと思うので、そのときはよろしくお願ひします(笑)。そして、お手伝いいただいた市役所のみなさんありがとうございました。また行く企画があればぜひよんでください!次に現地でお世話になった日本大好きな英語の先生バーナにありがとうを言いたいです。授業中、日本語が飛び交うときもありすいませんでした。そして僕のセカンドホーム、ホストファミリーのフランに心から感謝したいです。僕はこの家を選んで本当に幸せでラッキーボーイだと思います。ありがとうございました。最後にカナダでともに過ごした山崎先生・グループのメンバー、山崎先生から僕は本当にたくさんものを学ばせていただきました。僕の人生の目標にもなったと思うし、今回の研修が成功したのは本当に山崎先生のおかげだと思っています。いつまでも僕たちの先生でいてください。ありがとうございました。そしてグループのメンバー!みんなとはたくさん話したけど、みんなと研修に出られて本当にうれしかった!留美ちゃんはお姉さんの存在で、黒ちゃんの面倒をしてくれるとても優しい人でした。栞ち

ちゃんはしっかりしていて、僕が聞き忘れたりしてることもしっかりサポートしてくれました。亜古ちゃんは一年生だけどその素晴らしい吸収能力に驚かされました。英語をこれからも頑張るってね。そして黒ちゃん！同じ家にホームステイしたけれど、口うるさい同居人で本当に申し訳なかった(笑)。正直大変だったけれど黒ちゃんがきっかけで僕も前に出ら

れたことがあったし、そこから学んだこともたくさんあったよ。なんだかんだいって同じ家でよかったと思う。ありがとう。

もう忘れていない人いないか! ? と何度も確認してしまうぐらいたくさんの人に支えられてこの研修を終えることができました。といっても僕はこの旅を終わらせるつもりはありません。これからが僕たちの旅なん

だなと思います。

I want to say t
his word one mor
e time
Thank you Ma
rk

大好きカナダ

樋口 留美 (音江中学校 2 年)

わたしは、夏休みの2週間を使って、カナダにホームステイするという貴重な体験をした。事前研修の時はよさこいをしたり団旗を作ったり・・・。ということをし、カナダに行く実感がまだなかったが、こうして帰国し、事後研修で集まっていたりすると、(ああ、カナダに本当に行ったのだなあ)と実感します。本当に夢みたいな2週間を過ごし、あつという間でした。たまたま写真を見たり、話をしたりすると、思い出して本当に本当にお金を出してくれた親や市役所の人たちに感謝しても足りないぐらいです。

だからまたこういう企画があれば絶対にカナダに行きたいです!! 本当最高にいい時間を過ごしました。だから妹も中学生になったら行って、わたしが買い忘れたお土産や写真をとりにカナダに行ってほしい。それだけではなく、わたしが楽しんだ事を妹にも体感してもらってカナダがいいところと言う事を知ってほしいです。出来るなら一緒に行きたいぐらいカナダが好きです!! ホストフ

ァミリーやバーナやエアードさんにも会いたいです。

私のホストファミリーはとても忙しく、あまり家にもいなく、どこにも連れていってもらえませんでした。唯一連れて行ってくれたのがアイスホッケーでした。それは、ホストブラザーがやっているのを見に行った感じでしたが・・・。でも、このホストファミリーで良かったと思ってます。なにより自分の2週間を過ごした家族だから!!! いつも優しく声をかけてくれるホストファミリーが大好きです。わたしのホストファミリーは再婚夫婦らしく、兄弟もお母さん側の子ども2人、お父さん側の子ども1人で合計5人。お母さんのライナ、お父さんのブレット、お母さん側の子供で兄のトラビス、姉のコーリー、お父さん側の弟のラリー、ライナはほとんど私の世話をしてくれ、とても優しい。ブレットはよく夕食を作ってくれ、とても親切。トラビスはあまり話さないけど簡単な単語ばかり使ってくれ、とても気遣ってくれる。コーリーは家に

いることが少なかったけど、絶対コーリーとはガールズトークになり、とても気が合う。ラリーはわたしとよく遊んでくれ、犬や猫と話したり、バレーボールも一緒にし、とても楽しい。だからこのホストファミリーで本当によかった。ラリーの友達とバレーボールをした時は本当にこのままでいたい!と思った。寂しい時も時々あったけれど、よかった。本当にみんなには迷惑をかけてばかりだった。2日目にいきなりスーパーマーケットに行き、ちょっと違うところのドアをあけてしまい警報がピーピー鳴って怖かったけれど全部解決してくれた。

本当に世話になってばかりでカナダの人の優しさに浸って別れの時は涙を流してばかりでした・・・もうホストファミリーには会えないと思うけれど、メールなどでつなげていきます。大好き大好き大好き大好き大好きカナダ

一生絶対忘れない My first host family

三輪 栞 (音江中学校 2 年)

最高だった! その一言しか最初は浮かばないくらい感無量という感じだった。

カナダに行く前は緊張と期待でいっぱいだった。カナダに着きホストファミリーと会った時はホッとしました。ホストファミリーはとても優しく、いつも気にかけてくれました。ホストマザーとホストシスターはいつも一緒だったし、ホストファザーは面白くて帰ってくると時々夕食も作ってくれました。わた

しはホストファミリーともすぐ打ち解けることができました! わたしのホストファミリーは母親と父親と女の子1人で、女の子はまだ2歳ですごくかわいかった! 名前はジェフ(ファザー)、アリソン(マザー)、メイゲン(シスター)といいます。部屋とバスルームをひとつかしてくれただけ、わたしはホストファミリーとたくさん話したかったので、いつもリビングかテラスにいた。アリ

ソンは専業主婦だったのでいつも一緒にいた。部屋に行くときメイゲンが来て一緒に遊んだり歌ったりした。ホーキー・ボーキーを歌った時には歌詞どおりに踊ってくれて楽しかった。逆にわたしがメイゲンの部屋に行くとき本を渡してくれた。最初は何の事かと思ったけど読んであげると喜んでいたので、読んでほしかったんだと気がついた。でも、難しい単語がでてきて読んであげられないと

きは悲しかった。

この研修で一番心残りなのがうまく思いを伝えられなかったり、英文を全部読めなかった事です。もっともっと英語が話せたら、もっともっと自分の事を教える事ができたのと思いました。でも、ジェスチャーや単語を並べるだけでも簡単な事は伝わってうれしかった。色々な人に会って、色々な物・事に触れて、新しい事を知る事が出来て本当に良かったです。

この研修はわたしに色々な事を教えてくれたと思う。学校も違う仲間と会わせてくれて、団結力を深めさせてくれて、本場の英語を聞けて、国境を超えた人の温かさに触れることが出来て、視野、価値観を一層広く、自分を大きく成長させてくれた。ホストファミリーだけではなく、バーナや市役所の方々、みんなのホストファミリーとも会うことが出来て本当に良かった。このような機会はめったにないと思う最高の日々でした。

た。

わたしはまた海外に行ってもっと色々なことを吸収したいと思っています。だからその前にまず、しっかり日本のことを学んでいこうと思います！本当にカナダに行けて良かったです！市役所の方々とかカナダの市役所の方々、両親、そしてこのメンバーと山崎先生、本当にありがとうございました！

最高だった Canada の旅 岡下 亜古（一巳中学校 1 年）

カナダでの 2 週間は、あっという間に過ぎていきました。そして、カナダの生活は想像以上に大変なものでした。まわりには日本語が無く、自分の気持ちを伝える時は、すべて英語。ホストファミリーに気持ちが伝わらない時もあり、毎日がすごく不安で、戸惑いを隠せませんでした。わたしは言葉が通じないつらさを実感しました。しかし、わたしが困っていると、ホストファミリーはゆっくりとした口調で話をしてくれました。とても、優しくしてくれたので、わたしもそれにこたえようと、知っている単語を精いっぱい使って気持ち

を伝えようと思いました。

カナダには、心優しい人たちとおいしい食べ物がたくさんありました。私のホストファミリーは料理がとても上手で、毎日、わたしの好きなものを作ってくれました。そのおかげでわたしは 2 週間、元氣いっぱい過ごすごうでした。カナダで食べたあのビザの味は忘れられません。

カナダから帰ってきた今、わたしはカナダに行きたくて、本当に良かったと思っています。楽しいこと、つらいこと、不安なことなど色々ありましたが、良い経験ができて、たくさん

の人たちと片言ですが、英語で話すことができ、本当に楽しかったです。カナダでホームシックにならなかったわたしが、日本ではホームシックになってしまいそうです。

また、いつか機会があったらカナダに行きたいと思っています。そのときには、今よりもっと英語を話せるようになっていきたいです。カナダでの 2 週間は、わたしにとって忘れられない良い経験と大切な思い出になりました。

貴重な経験 黒田 悠平（深川中学校 1 年）

僕はアボツフォードで外国人と交流したり、自分の英語が上手になりたくて青少年カナダ交流訪問団に申し込みました。訪問団員に決まってから今までよりも英語をたくさん勉強し、アボツフォードでよさこいを披露するのでたくさん練習をしたり、衣装などを縫ったりしました。

出発する前日「この家を 2 週間も空けておくと母と祖母がとても心配する」と思うと、とても悲しくなりました。

出発の日、母と祖母が見送りに来てくれて、僕はとても悲しくなりました。けれども、ホームステイを頑張ろうと思う気持ちが心からあふれ出ていました。

アボツフォードに行ってから色々

な人と出会いたくてヒッチハイクをしたり、ホストファミリーと色々な会話をして、お互いの心確かめ合いました。最初、僕の英語は少ししか伝わらなくて、3 年生の佐藤君にうまく伝えるように話してもらい、とても迷惑をかけたと思います。しかし、1 週間も経つとどんどん英語が伝わってきて、とてもうれしかったです。カナダに居る間、とてもお寿司が食べたくて、毎日 eat sush i と言っていました。英語が通じなかったのが佐藤君が僕に伝える方法を教えてくれました。それは、I want to eat sush i です。早速その英語を使ってみると、見事に伝わりお寿司を食べる事ができました。外国のお寿

司はご飯にレモンの汁がかかっている、ネタは一度湯どうししてありました。ほかにもいろいろな経験をしました。例えば 90 度もあろうかと思うスベリ台に乗ったり、先生のホストファミリーの家でジャングル探検をしたり・・・。日本ではとても経験できない事であふれていました。

カナダに行き僕は英語が上手になったけど、最初は言葉の通じない中、会話をするために身振りや手振りなどを使っていました。そういう中から人のつながりを見つける事ができました。人との出会いや自然との触れ合いは、僕にとってとても貴重な経験でした。

WALKING ON THE SUNSHINE,

『すべての人にはHEARTがあるから、いつも幸せをHEARTで感じていよう』。アボツフォードでの16日間、ESL(英語を第2言語として指導)の教師であるバーナがわたしたちを励ます際に、いつも投げかけてくれたのはこのフレーズでした。

HEART...とても大きな単語であり、わたしたち日本人にとっては『どことなく温かく、優しい』ようなあいまいな単語に思われますが、国際交流の原点ではないでしょうか？

異なった文化的な背景をもつ同士が分かり合うときの感動。異国の地で言葉が通じないことによるかつとう。多くの共感やすれ違いを経験し、初めて生まれるホストファミリーとのきずな。すべてHEARTがあるから感じることなんですよ。

今回の青少年カナダ交流訪問団には5つのHEARTをもった深川市の中学生が参加しました。

MARK...君の高貴で純粋なHE

ARTの前に国や文化や言語の違いという障壁はみじんと崩れ去りました。君は新時代の国際人です。SHIORI...あなたの日本人としてのHEART、立ち振る舞い、礼儀正しさは海外どこに行っても恥ずかしくないものです。RUMI...あなたの思いやりと、温かいHEARTはわたしたち団員をいつも陰で支えてくれました。AKO...真っすぐで、強く、折れないHEARTはあなたの最高の財産です。KURO...人をひきつけるHEARTで常に多くの友人に囲まれていましたね。

そして、日本であなたたちを待つ家族やお世話してくれるさまざまな深川市の人々、そして、このプログラムと両市のきずなと歴史を築きあげてきた先輩たちの、たくさんのHEARTに支えられて、あなたたちは素晴らしい経験を積むことができました。

そして、深川市とアボツフォードを結んでいる、そこに住む人々をつないでいる、一番大切なものは『あなたたちが心と心で築いたきずな』だと誇りをもって下さい。ここで得

た自信と経験を胸に、これからの人生で大いに羽ばたいて下さい。これから出会う多くの人達にHEARTを分け与えて下さい。君たちはそれができる人です。

最後に、わたし自身も『walking on the sunshine』(“幸せいっぱいな気持ちで、明るく元気よく”の意味をもつカナダの口語表現)の気分でみんなと過ごせた日々をうれしく思います。あなたたちは最高の生徒であり、最高の友人でした。そして、これからも。

PS) ホームステイでお世話になったエアード、シラー夫妻には多くのことを感化されました。真のホスピタリティー(もてなしの心)とは何か、家族で多くの時間を共有することの大切さ、そして国際化時代における英語教師の責務の重さ...2人に分けてもらった大きな、大きなHEARTを深川市での教育活動に活かしていく所存です。

青少年カナダ交流訪問団同窓会開催

深川国際交流協会 理事 宮田 嘉明

8月16日(水)、プラザホテル板倉において、青少年カナダ交流訪問団の同窓会を開催いたしました。これは深川国際交流協会10周年を記念し、その記念事業の一つとして行われたものです。

平成9年の設立から10年、9回の青少年カナダ派遣事業(平成15年はサーズの影響で中止)を通じ、市内の中高生71名が憧れの地カナダに派遣されました。その時の楽しかった思い出や体験をもう一度思い返しみんなで語ることで世代を超えたひとまわり大きな交流の輪が広がればとの思いを込めての開催でした。

前段、深川に住んでいる派遣団員7名と事務局を含め発起人会を立ち上げ準備を進めました。なんとか楽しい最高の時間をみんなで共有したいとの思いを込めて一つひとつ練り上げていきました。一番心配したのが全国に散らばった子どもたちがどれだけ集まってくれるかということでした。それぞれ連絡を取り合い、出欠の確認をしなんとか当日を迎えました。

当日、会場には、なんと45名の派遣団員と12名の引率者、そして協会員17名、事務局合わせ総勢約80名の人が集まってくれました。一つ心配していたことは、10年という時間の中、子どもたち(もう子どもではなかったが)を思い出せるかどうかということでした。

しかし、笑顔で会場に入ってくる子どもたちの声やしぐさを感じるごとに、10年の記憶とその背景がよみがえりました。夢中でおしゃべりをし、笑い、唄も聴き、最後にお互いの近況報告、本当に楽しい2時間を過ごすことができました。カナダに行ってみたいという同じ夢を共有した者同士、年代の壁を超えるのにそう時間はかからなかったようです。

今後、色々な経験を踏まえ成長していく子どもたちに心からエールを送り、あの時の純粋な気持ちを忘れずにいつまでもいてほしいと思います。みんな頑張りましょう！



深川国際交流協会シンボルマーク表彰式開催

深川国際交流協会 理事 谷口 保幸

8月16日(水) 青少年カナダ交流訪問団同窓会の席上において「深川国際交流協会シンボルマーク表彰式」を開催いたしました。

5月下旬から1カ月間募集期間を設け、市内の小・中学生、高校生を対象に、当協会の各種広報活動やバッジ・協会旗の作成などに使用する「シンボルマーク」を募集いたしました。

最優秀賞に深川小学校5年生の寺井 悠樹くん、優秀賞に一已小学校6年生の佐藤 華子さん、深川西高等学校の岡本 三佳さん、審査員特別賞に一已小学校6年生の白鳥 佑季さんの4名が受賞されました。

協会バッジについては、最優秀賞の寺井くんのデザインを基に作成いたしました。協会旗については、最優秀賞の寺井くんと審査員特別賞の白鳥さんのデザインを組み合わせで作成いたしました。



最優秀賞 受賞
深川小学校5年生 寺井 悠樹くん



深川国際交流協会 協会旗

協会旗のデザイン説明

- ・深川の特産物のりんごを地球に例えている。
- ・りんごのつやは、日本地図を表している。
- ・りんごにかかる稲穂は、深川のお米を表している。
- ・りんごにかかる緑の輪は、地球が緑に包まれていることを意味する。
- ・人間が手をつないでりんごを囲んでいるのは、世界平和を表している。
- ・丸い頭は男の子、丸い頭に髪の毛があるのは女の子を表している。
- ・手をつないでいる人間の丸い枠は、国際交流の輪・友好の輪・地球の輪を意味する。
- ・協会旗の色は、深川市の市章と同じ色としている。
- ・SINCE 1997 は、深川国際交流協会設立の1997年を表している。

アボツフォード市公式訪問団交流夕食会開催

8月31日から9月6日までの7日間、深川市の姉妹都市である、アボツフォード市よりファーガソン市長をはじめとする公式訪問団総勢14名が深川市を訪れました。

深川国際交流協会では、9月3日(日)、まあぶバーベキューハウスにて、アボツフォード市公式訪問団交流夕食会を開催いたしました。

- 17:00 受付開始
- 17:30 開会
司会：深川国際交流協会 土門受入交流部会長
歓迎挨拶：深川国際交流協会 芳賀会長
記念品贈呈：深川国際交流協会 芳賀会長
公式訪問団代表挨拶：エアード・フラベル 氏
- 17:40 乾杯
歓談
- 18:00 アトラクション：おとえ獅子舞
- 18:10 アトラクション：餅つき
- 18:50 お開き：深川国際交流協会 小滝理事長
- 19:00 閉会



2007 深川国際交流カレンダー 広報カレンダーの部入賞



深川国際交流協会の年間の活動をカレンダーを通して目に触れてもらうことにより、協会の各種事業や深川市の国際交流の状況などをPRすることを目的に、2007 深川国際交流カレンダーを作成いたしました。

2006年度は、深川国際交流協会10周年事業や姉妹都市のカナダ・アボツフォード市公式訪問団受入れ事業など数多くの事業があり、協会員だけではなく、一般市民も多数参加した事業を中心にカレンダーに掲載いたしました。

また、今回のカレンダーは、広報広聴技術研究会実行委員会（北海道、北海道市長会、北海道町村会）が主催する「第53回北海道広報コンクール」に応募し、広報カレンダーの部で入賞いたしました。

今後も深川国際交流協会の認知度の向上および浸透を図るため、市民に親しまれるカレンダーを作成していきたいと思っております。

国際理解フォーラム開催

2006年度の青少年カナダ交流訪問団報告会は、深川市社会教育活性化推進委員会主催の「国際理解フォーラム」の中で、1月20日（土）プラザホテル板倉にて開催されました。

このフォーラムは、第1部に「青少年カナダ交流訪問団報告会」、第2部に「基調講演、パネルディスカッション」を実施し、幅広い層の市民66名が参加しました。

青少年カナダ交流訪問団報告会では、5人の中学生がカナダで養った英語力を発揮し、例年の報告会とは違った、日本語と英語を交えた報告会となりました。

パネルディスカッションでは、3名のパネリストが韓国・中国・ネパールでの各文化をテーマに、日本との文化の違いや日本で不思議に感じたことなどを分かりやすく説明しました。



11:30 受付開始

12:00 開会

12:10 【第1部】青少年カナダ交流訪問団報告会

13:00 【第2部】基調講演「二つの国を見つめて」

講師：浅井学園大学短期大学部講師

田光子氏

14:10 ティータイム

14:30 【第2部】パネルディスカッション

「多文化共生時代～アジアから学ぶ」

パネリスト：基調講演講師 田光子氏

拓植大学北海道短期大学社会人学生

三宅敬氏

拓植大学北海道短期大学留学生

林雲氏

コーディネーター：拓植大学北海道短期大学副学長

小滝聡氏

15:45 閉会





↑ インターナショナルデー アイラブアップルズ ゲーム



↑ 深川国際交流協会 10周年記念交流パーティー



↑ 青少年カナダ交流訪問団同窓会



↑ 青少年カナダ交流訪問団同窓会

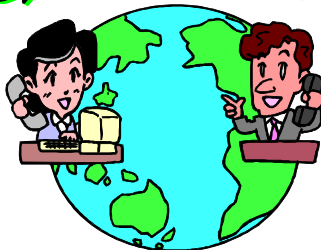
募集しています！

- ☺ 「ホストファミリー」 現在 42 家族の方が登録されています。
- ☺ 「通訳・翻訳ボランティア」 ... 現在 18 名の方が登録されています。
- ☺ 「深川国際交流協会会員」 現在、一般会員 98 名、学生会員 16 名、賛助会員 41 団体です。



【問合せ先】深川国際交流協会事務局（深川市企画課） ☎26-2215

世界に発信する深川地球市民



<http://fukakoku.net/>

【広報誌発行責任者】谷口 保幸（広報部会部会長）

【広報誌編集担当】深川国際交流協会 広報部会

編集長：南部 雄二 副編集長：池田 敏江・橋本 信（広報部会副部会長）

編集委員：稲田 伸人・今井 敏雄・上垣 由紀子・北本 清貴・小橋 厚子・鈴木 美彦・高橋 昇
寺下 良一・田中 由美子・橋向 利勝・三ツ井 隆博・山田 弥生・渡辺 英雄